

# 北葛地域政策研究会ニュース (平成29年6月号)

## 平成29年度の研究会総会を開催

5月30日(火)午前、大阪府阪南市へ向かうバス車中において、平成29年度北葛地域政策研究会総会を開催し、役員改選と事業計画の承認を行いました。

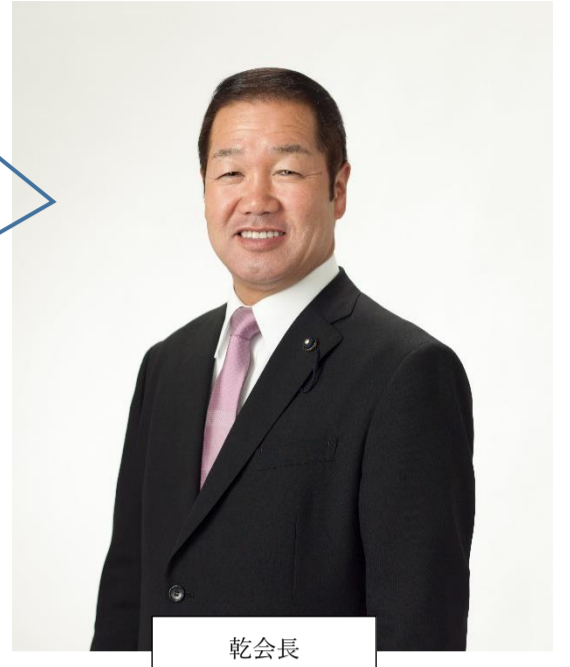
### 1 役員改選の結果

会長 乾 浩之(奈良県議会議員)  
副会長 辻 誠一(上牧町議会議員)、西本集一(王寺町議会議員)  
笹井由明(広陵町議会議員)、谷本昌弘(河合町議会議員)

### 2 平成29年度事業計画

- ①第4回政策研究会(平成29年5月)  
テーマ:「まちづくり」 内容:大阪府阪南市箱の浦地区を視察
- ②第5回政策研究会(平成29年秋)  
テーマ:「障がい者福祉」 内容:県内の福祉事業所を視察

これまでの2年間、県庁から講師を招いて基礎的なことを勉強しましたが、これからは皆さんと一緒に、各地のいろいろな事例を見て勉強していきたいと思えます。会員の皆さんご協力よろしくお願いいたします。



乾会長

## 第4回政策研究会(テーマ:「まちづくり」)の概要

### 大阪府阪南市

### 「箱の浦自治会まちづくり協議会」 の取り組みに学ぶ

5月30日、箱の浦自治会まちづくり協議会の岡保正会長(右写真)からまちづくり協議会の取り組みについてお話いただきました。

#### 1 まちづくり協議会の目的

- ①高齢者支援・相談 ②子育て支援・相談
- ③地域福祉支援・相談 ④地域美化・環境整備

#### 2 おしゃべりサロン(2012年6月23日開設)

元はデベロッパーの事務所であった建物を借りて開設。  
毎週火、木、土の週3日、午前10時～午後3時まで、コーヒーなどの飲み物を100円で提供。参加者が気軽に話し合える交流の場であり、毎週火曜日の午前中に地区担当ソーシャルワーカーが常駐。



#### 3 シニアランチハウス(2015年5月20日開始)

高齢者、特に一人暮らしの人や認知症気味の人たちが一堂に会して昼食をともにすることで、高齢者の健康維持とコミュニケーションの増進を目的として空き家を借りて開催。月3回の食事会を開催。参加費500円。



#### 4 箱の浦・朝市(2012年11月24日開始)

サロンの敷地内で毎週土曜日に開催。野菜や魚、パン、ケーキなどを生産者直売で販売。出品者から1テーブルあたり300円を徴収。朝市を補完する役割で、生協の移動販売車が毎週火曜日に団地内6箇所を巡回販売。



まちづくり協議会の岡会長(右)と寺嶋事務長

#### ○箱の浦自治会まちづくり協議会のプロフィール

箱の浦は、大阪府と和歌山県の境、阪南市(人口56,000人)の南西部海沿いにある人口およそ2,000人の団地です。今から40年前はニュータウンと呼ばれる地域でしたが、今では高齢化が進みオールドタウン化。買い物困難、2キロある駅まで距離の移動手段がない…など課題が山積みでした。

ならば、箱の浦のことは箱の浦で解決しよう! その思いで立ち上がったのが、「箱の浦自治会まちづくり協議会」。

助成金にほとんど頼らず、高齢者の憩いの場「おしゃべりサロン」の開設や買い物難民解消のための「箱の浦・朝市」など、自分たちの手で地域を変えてきた力強い組織です。

#### 5 お助け隊(2013年5月1日開始)

高齢者の日常生活上の困りごとの解決のために、有償ボランティアが依頼された草刈り、植木剪定、電球交換などの仕事を有償で行う活動。

#### 6 再生資源回収(2014年4月1日開始)

まちづくり協議会の財源確保のために再生資源(古紙、段ボール、アルミ缶)を回収。月1回の回収作業は12~14人のボランティアと車両4台で行い、年間65万円以上の収入を確保。



## 7 会員制・送迎便(2014年4月1日開始)

団地から箱作駅までの間を10人乗りのワゴン車で月曜～金曜まで運行。早朝便は午前6時～7時半、夕方・夜便は午後6時～9時半。赤字は自治会と協議会から補填。

## 8 のびのびクラブ(2013年3月31日開始)

子どもたちの健やかな成長のために、高齢者のボランティアがそうめん流し、ヨット体験など親子で楽しめる行事を計画・実施。「親子」を対象としているのは、協議会の後継者づくり側面もある。

## 9 子どもサロン(2017年3月開始)

子どもたちが放課後や休日に学習したり遊んだりする居場所として「子どもサロン」を建設。元教員や学童保育経験者、大学生などによる宿題の援助や読書会などを実施。



## 10 行政との関係など

箱の浦ではまちづくり協議会が「おしゃべりサロン」や「シニアランチハウス」を運営し、認知症の方の見守り体制もつくっている。介護保険制度の見直しで要支援1, 2のサービスが廃止され、市町村でその受け皿を用意することになるが、箱の浦ではすでにその準備ができています。

また、防災マップについても、阪南市全体の地図では分かりづらいため、協議会では独自に箱の浦の防災マップをつくって配っている。

世間一般に「この種の活動すると行政が資金を出してくれるのか？」という発想が多いと思う。

しかし、箱の浦のまちづくり協議会は、「箱の浦のことは箱の浦でやっていく」という考えで、地域の課題解決を自分たちの事業として取り組んでいる。

協議会の財政確立のために、「さわやか財団」や「大阪商工会議所」などの助成金に応募して賞金を獲得している。



## 河合町 谷本議員

○トラックやマイクロバスの維持費はだれが負担しているのですか？

◇車両の所有者は会長名義で維持費用は協議会が出しています。

○地域の治安、空き巣などの対策はどのようにされていますか？

◇防犯について、会長自身が市の防犯委員をしています。

職がちぎれていたら地域の防犯体制が弱いと思われるので気を付けているほか、車両に青灯を付けて見回りをしています。

また、学童の見守りも市内で最初に取り組みました。

さらに、防災のしおりも箱の浦地域だけのものをつくって、これで訓練もしています。



## 広陵町 吉川氏

○自治会と協議会の関係や老人会や子供会の関係を教えてください？

◇自治会から協議会に年間20万円出してもらっています。

駅までの送迎車は当初自治会で運行していたものを協議会に移しました。

また、老人会についてもまちづくり協議会に移したいとの話ができています。



## 上牧町 竹之内議員

○行政の巡回バスがあるのですか？

また、白ナンバーバスが認められる方法について教えてください。

◇市が運行するコミュニティーバスもありますが、本数が少なく使い勝手が悪いので通勤通学にはまちづくり協議会の送迎が必要です。

白ナンバーの送迎も地域公共交通会議で位置づければ可能と聞いています。



質疑応答 (質問=○印、回答(岡会長)=◇印)

## 上牧町 辻議員

○協議会と自治会は別の活動ですか？

◇主なメンバーは自治会役員経験者で、協議会と自治会は表裏一体です。

自治会の役員は数年で交代するので、継続して取り組むため協議会をつくりました。

○市の助成は受けていますか？

◇おしゃべりサロンの建物を借りる際、市役所に助成をお願いしましたが、同様な事例が増えると困るという理由で実現しませんでした。

行政と連携していますが特別な助成はもらっていません。

○廃品回収は子供会、お助け隊はシルバー人材センターと競合すると思いますが、それらと調整をされたのですか？

◇シルバーとは調整していませんが、地域の植木屋さんの仕事を奪わないようには気を付けてきました。

